

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		永源山公園イベント事業費			担当所属	公園花とみどり課			
基本情報	分野	3 地域づくり		事業期間	～				
	基本施策	2 市民活動の促進		会計種別					
	推進施策	2 市民活動の支援の充実		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	永源山公園（総合公園）							
	意図	市民参加による実行員会を中心としたイベントを開催することにより、地域のふれあいの場を提供し、公園の利用を促進するとともに、地域の活性化を促す。							
	成果	市民参加型の実行員会方式の地域イベントを開催することにより、コミュニティの活性化が図られ、公園利用者数の増加が見込まれる。							
	手段	実行委員会主導によるイベントの開催 ・5月 つつじ祭り（R2年度 中止） ・10月 ゆめ風車まつり（R2年度 中止）							
指標	活動指標	指標名		単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込	
		イベント来場者数		目標値	人	50000	50000	10000	10000
				実績値	人	30000	33500	0	-
				目標達成度	%	60.0	67.0	0.0	-
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算		
	トータルコスト		6,216	10,211	9,253	8,443	10,871		
	事業費		1,500	2,500	2,500	0	2,500		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		1,500	2,500	2,500	0	2,500		
	人件費合計		4,716	7,711	6,753	8,443	8,371		
正職員		4,716	7,711	6,753	8,443	8,371			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.64	1.05	0.93	1.18	1.17			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
周辺環境	開始時の周辺環境								
	つつじ祭り（R2年度 中止）、ゆめ風車まつり（R2年度 中止）は継続的に開催しており、周南市の一大イベントとして定着している。チュールップ満開作戦は平成28年度より指定管理者で対応。								
	現状の周辺環境								
周辺環境	各イベントの実行委員会において、組織体制や企画力の強化を図る必要がある。								
	今後の予想される周辺環境								
	集客増に向け、実施内容を検証するとともに、新しいイベント内容についても検討を重ねていく。また、新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインを踏まえイベントごとに感染症対策を徹底する。								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）							
		2. 事務事業の目的（対象・意図）							
		3. 事務事業の目標（活動指標等）							
	有効性	4. 計画の実施状況							
		5. 目標（活動指標等）の達成度							
		6. 上位施策への貢献度							
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み							
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み							
		9. 類似事業との統合・代替の検討							
10. これまでの実施手段									
総合評価	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のためつつじ祭り、ゆめ風車まつりを中止								
改革案	今後の実施方向性	維持	地域の活性化と観光振興に寄与するものであり、実行委員会との連携による市民参画事業でもあるので、継続的に開催していく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
地域のふれあいの場を提供し、公園の利用を促進するとともに、地域の活性化を施すことができる。									

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		ゆめ花博の成果を活かしたまちづくり活動支援事業費			担当所属	公園花とみどり課			
基本情報	分野	3 地域づくり		事業期間	令和2年度 ~ 令和4年度				
	基本施策	2 市民活動の促進		会計種別					
	推進施策	2 市民活動の支援の充実		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	平成30年度に開催された山口ゆめ花博で得られた様々な成果（花と緑を活かした地域づくりやまちづくりの推進、県民・市民活動の活性化、人材育成、公園等の地域資源の新たな利活用など）を活かした事業で、今後更に継承される取組みをする地域団体等							
	意図	山口ゆめ花博で得られた様々な成果が、今後更に継承される取組みを支援することで、地域の新たな活力の創出につながることを目的とする。							
	成果	山口ゆめ花博で得られた様々な成果が、今後更に継承される取組みを支援することで、地域の新たな活力の創出につながるが見込まれる。							
	手段	山口ゆめ花博で得られた様々な成果を活かした事業を実施する複数の地域団体等を公募し、採択された事業に対して市が補助する。							
指標	活動指標	指標名		単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込	
		実施事業数		目標値	事業	0	0	4	4
				実績値	事業	0	0	4	-
		目標達成度		%	-	-	100.0	-	
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算		
	トータルコスト		0	0	0	10,083	5,185		
	事業費		0	0	0	3,000	1,250		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	1,500	625		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	500	208		
	一般財源		0	0	0	1,000	417		
	人件費合計		0	0	0	7,083	3,935		
正職員		0	0	0	7,083	3,935			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.00	0.00	0.00	0.99	0.55			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
周辺環境	開始時の周辺環境 花と緑を活かした地域づくりやまちづくりの推進、市民活動の活性化、人材育成、公園等の地域資源の新たな利活用などが求められる。								
	現状の周辺環境 山口ゆめ花博の成果を活かしたまちづくり活動により、地域活性化等の成果が得られている。								
	今後の予想される周辺環境 人口減少と少子高齢化が進展する中、地域の活力創出の新たな担い手が求められる。								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		A	山口ゆめ花博で得られた様々な成果を活かした市民の創意工夫による取組みを支援することにより、地域の新たな活力の創出につながる役割を果たすため妥当である。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		B					
	有効性	4. 計画の実施状況		A	地域団体の取組む4事業に対して支援した。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度		A					
		6. 上位施策への貢献度		B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	山口ゆめ花博の成果を踏まえた事業を実施する地域団体への支援のため、補助要件を満たした地域団体を支援する。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		B					
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	A	地域団体からの交付申請のあったすべての事業に支援を行った。							
改革案	今後の実施方向性	維持	山口ゆめ花博の成果を踏まえた事業を実施する地域団体への支援を行い、地域の活力の創出につなげ市民活動を促進させる。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか） 山口ゆめ花博の成果を踏まえた事業を実施する地域団体への支援を行うことで、地域の活力創出につながるとともに、市民活動の活性化が期待できる。								

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		公園施設長寿命化対策事業費			担当所属	公園花とみどり課		
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間	～				
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備	会計種別					
	推進施策	2 公園・緑地等の整備	実施計画	該当	総合戦略			
事業概要	対象	都市公園						
	意図	設置から30年以上経過し、施設の老朽化が進んでいる都市公園において、計画的な維持管理の方針や長寿命化対策を定め、公園施設の安全性確保と機能保全を図りつつ、ライフサイクルコストの縮減や平準化を図る。						
	成果	安心・安全で快適な公園環境の形成と機能維持を目指し計画的な長寿命化対策を実施することで、安全性・利便性・快適性の確保やライフサイクルコストの縮減が図れる。						
	手段	周南市公園施設長寿命化計画に基づく、計画的な維持管理及び適切な長寿命化対策の実施。						
指標	活動指標	指標名	単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込	
		長寿命化対策実施公園数	公園	2	4	5	2	
		実績値	公園	4	3	4	-	
		目標達成度	%	200.0	75.0	80.0	-	
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算	
	トータルコスト		11,249	31,746	37,099	49,767	68,388	
	事業費		6,091	21,832	24,102	33,883	52,289	
	特定財源	国庫支出金	1,300	9,500	12,000	15,500	25,850	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	1,100	8,500	10,800	13,900	18,900	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		3,691	3,832	1,302	4,483	7,539	
	人件費合計		5,158	9,914	12,997	15,884	16,099	
正職員		5,158	9,914	12,997	15,884	16,099		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.70	1.35	1.79	2.22	2.25		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
周辺環境	開始時の周辺環境							
	高度経済成長期に集中投資した社会資本ストックの老朽化が急速に進行しており、厳しい財政事情の下で適切に維持管理を行っていくことが、施設管理者にとって重要となっている。							
	現状の周辺環境							
評価	公園に関するニーズが多様化しているが、公園利用者の安心・安全を確保するため、既存施設の老朽化の進行に対して、計画的な長寿命化対策を推進する必要がある。							
	今後の予想される周辺環境							
	人口減少と少子高齢化が進展する中、持続可能な公園の維持管理が求められる。							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)		B	長寿命化計画に沿って計画的に施設更新を行っている。			
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A				
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)		B				
	有効性	4. 計画の実施状況		B	老朽化した施設更新を計画的に実施している。			
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		B				
		6. 上位施策への貢献度		A				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	公園施設の老朽化の進行に対して、長寿命化対策を進捗させる必要がある。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A				
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	B		公園利用者の安心・安全の確保の観点から長寿命化対策事業の拡充に努める。					
改革案	今後の実施方向性	拡充		公園施設の老朽化の進行は今後、益々顕著となり、現在の事業進捗では安全を確保するのが困難となることで、市民への着しいサービス低下となるため、事業費の拡充が必要となる。				
	成果方向性	成果上昇						
	コスト方向性	コスト増大						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)		公園利用者の安心・安全を確保することで快適な公園利用の向上が図れる。					

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		周南緑地整備事業費			担当所属	公園花とみどり課		
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間	～				
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備		会計種別				
	推進施策	2 公園・緑地等の整備		実施計画	該当	総合戦略		
事業概要	対象	周南緑地（緩衝緑地）						
	意図	周南地域の中核となる都市公園であり、スポーツ交流の拠点、憩いの空間として市民に親しまれ、安心・安全・快適で魅力のある公園として計画的な整備を行う。						
	成果	周南地域の中核となる都市公園として、安心・安全で快適な公園環境の形成と機能維持を目指し計画的な整備を行うことで、スポーツ交流の拠点施設機能等の充実が図られ利便性が向上し、利用者数の増加が見込まれる。						
	手段	周南緑地基本計画に基づく施設整備の実施。						
指標	活動指標	指標名		単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込
		年間利用者数		人	800000	800000	700000	450000
				人	796503	695530	429170	-
		目標達成度		%	99.6	86.9	61.3	-
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算	
	トータルコスト		69,401	89,883	24,359	21,872	30,766	
	事業費		62,033	78,500	10,999	10,996	21,250	
	特定財源	国庫支出金	17,129	9,244	5,000	5,000	5,000	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	15,400	51,100	4,500	4,500	4,500	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		29,504	18,156	1,499	1,496	11,750	
	人件費合計		7,368	11,383	13,360	10,876	9,516	
正職員		7,368	11,383	13,360	10,876	9,516		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	1.00	1.55	1.84	1.52	1.33		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
周辺環境	開始時の周辺環境							
	昭和43年から61年にかけて公害防止事業団により、共同福祉施設として整備された緩衝緑地である。							
	現状の周辺環境							
本市におけるスポーツ・レクリエーションの拠点であり、広場が多数あることなどから災害時の復旧・復興活動を行う広域防災拠点に指定されている。								
今後の予想される周辺環境								
人口減少、少子高齢化は全国的な課題であり、周陽地区においても空洞化による人口減少は例外ではない。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	実施計画に沿って施設更新を行っている。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	B					
	有効性	4. 計画の実施状況	B	実施計画どおり概ね実施している。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度	C					
		6. 上位施策への貢献度	A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	A					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	エントランス整備は、継続的に行っていくが、今後は、公民連携による民間活力を活用し、大規模体育施設の改築・更新も計画的な整備を行っていく。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	B		周南緑地基本計画や長寿命化計画に基づき、公園利用者の安心・安全と施設の更新を図るため、計画的に事業を進めている。					
改革案	今後の実施方向性	手段変更	周南緑地広域スポーツ地区の活性化のため、公民連携による民間活力の導入					
	成果方向性	成果上昇						
	コスト方向性	コスト削減						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							
公民連携による民間活力の導入により、スポーツ交流拠点施設等の充実が図られ、利便性が向上する。								

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		児童福祉施設管理事業費			担当所属	公園花とみどり課		
基本情報	分野	7生活基盤	事業期間	～				
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備	会計種別					
	推進施策	3 公園・緑地等の適正な維持管理	実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	児童遊園48箇所						
	意図	児童が安心して利用できるレクリエーションやコミュニティの場を確保するため、児童遊園の適切な維持管理を行う。						
	成果	安心・安全で快適な公園環境の維持管理を行うことで、児童に健全な遊び場を与えてその健康を増進し、情操を豊かにする。						
	手段	児童遊園の借地契約事務（借地契約件数8件）、施設の修繕、遊具の点検等						
指標	活動指標	指標名		単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込
		遊具の点検回数	目標値	回	6	6	6	6
			実績値	回	6	6	6	-
			目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算	
	トータルコスト		4,838	7,129	4,889	7,282	5,948	
	事業費		2,554	4,118	2,348	2,187	2,748	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	8	20	15	17	15	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		2,546	4,098	2,333	2,170	2,733	
	人件費合計		2,284	3,011	2,541	5,095	3,200	
正職員		2,284	3,011	2,541	4,579	2,647		
正職員以外		0	0	0	516	553		
(事業費集計済)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.31	0.41	0.35	0.64	0.37		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.25	0.25		
周辺環境	開始時の周辺環境							
	児童に健全な遊び場を与えてその健康を増進し、情操を豊かにするとともに、交通等による災害を防止するため、安全な遊び場の提供や整備が求められた。							
	現状の周辺環境							
維持管理経費を抑えつつ、耐用年数を越えた大量の遊園施設改善を進めるかが課題である。開設当初から地域住民の協力を得て、草刈、清掃等の維持管理が行われてきたが、少子高齢化に伴い、年々その維持管理を取り巻く環境は厳しい状況下にある。また、車社会の熟成や遊び自体の多様化などの理由から、利用度合いは低下傾向にある。								
今後の予想される周辺環境								
更なる施設の老朽化や、少子高齢化による地域住民の担い手不足など年々その維持管理を取り巻く環境が厳しい状況が続くと考えられる。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	児童が安心して利用できるレクリエーションやコミュニティの場を提供する施設を確保し遊具の点検を行っている。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	B					
	有効性	4. 計画の実施状況	B	遊具点検について目標通りに実施できた。少子高齢化に伴い、年々維持管理を取り巻く状況は厳しくなっているが、地域住民の協力を得て、維持管理に取組んでいる。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度	A					
		6. 上位施策への貢献度	B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	B	地域住民の協力を得て、適切な維持管理に取組んで行く。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	B					
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	B		児童遊園利用者の安心・安全を図るため、適切な維持管理を行う。					
改革案	今後の実施方向性	維持	児童がいつでも安全・快適に使用することができるような適切な管理を行なうことが必要で、危険な遊具については、撤去・修繕に努める。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							
児童が安心・安全に公園を利用することができる。								

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		農村公園管理事業費			担当所属	公園花とみどり課		
基本情報	分野	7 生活基盤		事業期間	～			
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備		会計種別				
	推進施策	3 公園・緑地等の適正な維持管理		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	農村公園6箇所（鹿野地域）						
	意図	農村地域の市民のレクリエーションやコミュニティの場として利用されている、農村公園の適切な維持管理を行う。						
	成果	安心・安全で快適な公園環境の維持管理を行うことで、地域の交流の場を確保し、農村地域のコミュニティの活性化を図る。						
	手段	農村公園の借地契約事務（借地契約件数2件）、施設の修繕・点検						
指標	活動指標	指標名		単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込
		施設の点検回数		回	1	1	1	1
				回	1	1	1	-
		目標達成度		%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算	
	トータルコスト		1,103	577	724	1,025	904	
	事業費		1,029	504	506	524	546	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		1,029	504	506	524	546	
	人件費合計		74	73	218	501	358	
正職員		74	73	218	501	358		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.01	0.01	0.03	0.07	0.05		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
周辺環境	開始時の周辺環境							
	地域住民の健康増進とコミュニティ活動の場を提供するとともに、住民福祉の向上を図り、地域社会の発展に寄与することが求められた。							
	現状の周辺環境							
周辺環境	施設の老朽化が進み、一部の公園については地元の利用も少ない状況である。							
	今後の予想される周辺環境							
	更なる施設の老朽化や、少子高齢化による利用者の減少などが続くと考えられる。							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		A	農村地域の市民のレクリエーションやコミュニティの場を提供する施設の確保。			
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A				
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		B				
	有効性	4. 計画の実施状況		B	施設点検について目標通り実施できた。年々維持管理を取り巻く状況は厳しくなっているが、地元と連携して維持管理に取り組んで行く。			
		5. 目標（活動指標等）の達成度		A				
		6. 上位施策への貢献度		B				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	地元と連携し、適切な維持管理に取り組んで行く。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		B				
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	B	地域住民の健康増進とコミュニティ活動の場として、公園機能の維持保全を図る。						
改革案	今後の実施方向性	維持	利用者がいつでも安全・快適に使用することができるような適切な管理を行うことが必要で、危険な施設については、撤去・修繕に努める。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）		利用者が安心・安全に公園を利用することができる。					

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		公園緑地一般事務費			担当所属	公園花とみどり課		
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間		～			
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備		会計種別				
	推進施策	3 公園・緑地等の適正な維持管理		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	公園緑地等の適切な維持管理によって、地域の景観や良好な居住環境を確保するため、ソフト面を主体として事務事業を推進する。						
	意図	公園緑地等の維持管理に必要な事務事業を実施し、公園緑地環境の適切な保全を図る。						
	成果	公園緑地の維持・整備に関する一般事務を集約し、効率的に実施することで、業務を円滑に進め、公園緑地環境の適切な保全を図る。						
	手段	・公園緑地等の管理車輛の維持管理（パッカー車3台・クレーン付トラック1台） ・公園関係団体負担金（日本公園緑地協会）						
指標	活動指標	指標名		単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込
		指標なし		目標値				
				実績値				-
				目標達成度	%	-	-	-
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算	
	トータルコスト		5,259	3,786	6,049	9,952	10,399	
	事業費		2,091	2,097	4,234	3,369	2,815	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	845	742	32	
	一般財源		2,091	2,097	3,389	2,627	2,783	
	人件費合計		3,168	1,689	1,815	6,583	7,584	
正職員		3,168	1,689	1,815	6,583	7,584		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.43	0.23	0.25	0.92	1.06		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
周辺環境	開始時の周辺環境							
	公園緑地等の適切な維持管理によって地域の景観や良好な居住環境を確保する。							
	現状の周辺環境							
公園緑地の維持管理に必要な事務事業を実施し、公園緑地環境の快適な保全を図る。								
今後の予想される周辺環境								
公園緑地等の維持・整備に関する事務事業を集約し、効率的に実施し、事業を円滑に進めることができる。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		A	公園緑地等の維持管理に必要な事務事業を実施し、公園緑地環境の適切な保全を図る。			
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A				
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		B				
	有効性	4. 計画の実施状況		B	公園緑地の維持・整備に関する一般事務を集約し、効率的に実施することで、業務を円滑に進め、公園緑地環境の適切な保全を図ることができた。			
		5. 目標（活動指標等）の達成度		B				
		6. 上位施策への貢献度		B				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	公園緑地の維持・整備に関する一般事務を集約しており、効率的に事務を行っていることから、公園緑地環境の適切な保全を図ることができる。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		B				
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	B		公園緑地の維持管理のため効率的に事務を執行していく。					
改革案	今後の実施方向性	維持	公園緑地等の維持・整備に関する一般事務を集約し、効率的に実施する。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							
公園緑地等の維持・整備に関する一般事務を集約し効率的に実施することで、業務を円滑に進め、公園緑地環境の適切な保全を図ることができる。								

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		公園・街路樹維持管理事業費			担当所属	公園花とみどり課		
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間	～				
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備	会計種別					
	推進施策	3 公園・緑地等の適正な維持管理	実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	・都市公園等 ・街路樹						
	意図	公園の管理体制の充実を図り、誰もが安心・安全に利用できるように維持管理を行う。街路樹の維持管理においても緑の保全と景観、交通の安全に配慮し適切な管理を行う。						
	成果	快適な公園環境の維持管理を行うことで、誰もが安心・安全に利用できる地域のレクリエーションの場を確保し、コミュニティの活性化を図る。景観形成や交通安全に配慮しながら、街路樹の適切な維持管理を行うことで、まちなかの緑の保全を図る。						
	手段	都市公園等を、利用者が安心・安全に利用できるよう管理を行う。街路樹について、周辺の交通安全を配慮しつつ、まちの緑化推進のため適切な管理を行う。						
指標	活動指標	指標名		単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込
		遊具の点検回数		回	6	6	6	6
				回	6	6	6	-
		目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-	
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算	
	トータルコスト		129,229	145,187	154,102	147,560	149,773	
	事業費		113,535	122,347	129,052	125,451	130,383	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	4,166	5,682	3,455	9,230	3,436	
		その他	0	2,000	3,000	7,000	7,032	
	一般財源		109,369	114,665	122,597	109,221	119,915	
	人件費合計		15,694	22,840	25,050	22,109	19,390	
正職員		15,694	22,840	25,050	22,109	19,390		
正職員以外		0	0	0	9,798	10,514		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(9,798)	(10,514)		
人員	正職員 (人)	2.13	3.11	3.45	3.09	2.71		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	4.75	4.75		
周辺環境	開始時の周辺環境							
	安心・安全で快適な公園環境の保持と、街路樹による良好な景観と居住環境を創造するため、適切な維持管理が行える環境整備が必要となった。							
	現状の周辺環境							
公園愛護会の会員の高齢化が進む中、継続的な活動のできる体制づくりが課題となっている。施設の老朽化、市民の要望の多様化により、対応に係るコストは大きく増加している。樹木の太木化による落ち葉、越境問題等の苦情が増えている。								
今後の予想される周辺環境								
施設の老朽化や樹木の太木化による維持管理費の増大、高齢化による維持管理における担い手不足など、年々維持管理を取り巻く環境は厳しくなって行く。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)	A	市民のレクリエーションの場、災害時における避難地等の防災機能、緑の保全などの役割を確保する。				
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A					
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	B					
	有効性	4. 計画の実施状況	B	日常的な維持管理や公園の美化などを地域と連携しながら取組み、機能保全や安全性の確保を行った。				
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	A					
		6. 上位施策への貢献度	B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	B	地域と連携し、適切な維持管理に取組んで行く。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	B					
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	B	良好な景観や生態系の保全等の機能を維持するため樹木の管理マニュアルを基に、委託業者への指導を行うなど効率的かつ適切な維持管理を図る。また、公園愛護会活動の充実を図り、市民協働のまちづくりによる総体的な維持管理費の縮減を図っていく。						
改革案	今後の実施方向性	維持	事故を未然に防ぐための予防保全的な維持管理を推進して行く。公園愛護会活動を充実させ、市民協働のまちづくりによる総体的な維持管理費の縮減を図っていく。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト増大						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)							
市民が安心・安全に公園を利用することができる。								

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		周南緑地管理事業費			担当所属	公園花とみどり課		
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間	～				
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備	会計種別					
	推進施策	3 公園・緑地等の適正な維持管理	実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	周南緑地（東緑地、西緑地、中央緑地）、横浜緑地、遠石緑地						
	意図	周南地域の中核となる都市公園であり、適切な維持管理を行い、スポーツ交流の拠点、憩いの空間として市民に親しまれ、安心・安全で、気軽に利用できる公園とする。						
	成果	快適な公園環境の維持管理を行うことで、誰もが安心・安全に利用できる地域のレクリエーションの場としてだけでなく、スポーツ交流や広域防災の拠点として活用される多機能な施設として、利用者数の増加が見込まれる。						
	手段	利用者が安心・安全に利用できるような適切な維持管理を行っている。周南緑地の東緑地、中央緑地については指定管理者（（公財）周南市体育協会）で管理運営を行っている。						
指標	活動指標	指標名		単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込
		年間利用者数	目標値	人	80000	80000	70000	45000
			実績値	人	796503	695530	429170	-
			目標達成度	%	99.6	86.9	61.3	-
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算	
	トータルコスト		46,763	44,199	46,695	41,288	47,301	
	事業費		41,384	38,103	39,289	36,494	42,364	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	4	4	2	179	0	
		その他	0	0	0	0	2	
	一般財源		41,380	38,099	39,287	36,315	42,362	
	人件費合計		5,379	6,096	7,406	4,794	4,937	
正職員		5,379	6,096	7,406	4,794	4,937		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.73	0.83	1.02	0.67	0.69		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
周辺環境	開始時の周辺環境							
	誰もが安心・安全に利用できる地域のレクリエーションの場やスポーツ交流拠点として親しまれるよう、適切な維持管理が求められた。							
	現状の周辺環境							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	市民のレクリエーションの場、スポーツ交流の拠点、災害時における広域防災拠点、緑地の保全などの役割を確保する。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A					
3. 事務事業の目標（活動指標等）		A						
有効性	4. 計画の実施状況		B	日常的な管理や公園の美化などを指定管理者と連携しながら取組み、機能保全や安全性の確保を行った。				
	5. 目標（活動指標等）の達成度		C					
	6. 上位施策への貢献度		B					
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	指定管理者と連携する等、利用者へのサービス向上に取組む。				
	9. 類似事業との統合・代替の検討		B					
	10. これまでの実施手段		B					
総合評価	B	指定管理者と連携しながら適切な維持管理に努めているが、長期的な社会動向を見極め、より効率的・合理的な維持管理を進める。						
改革案	今後の実施方向性	維持	指定管理による業務実績を検証し、検証結果を基に予防保全的な維持管理を実施することにより、より効果的な管理運営を進める。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト増大						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							市民が安心・安全に公園を利用することができる。

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		永源山公園管理事業費			担当所属	公園花とみどり課	
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間	～			
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備	会計種別				
	推進施策	3 公園・緑地等の適正な維持管理	実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	永源山公園（総合公園）					
	意図	永源山公園の適切な維持管理を行い、レクリエーションやコミュニティの場として安心・安全で、気軽に利用できる公園とする。					
	成果	快適な公園環境の維持管理を行うことで、誰もが安心・安全に利用できる地域のレクリエーションの場が確保され、利用者数の増加が見込まれる。					
	手段	指定管理者（グリーン環境協同組合）により、利用者が安心・安全に利用できるよう適切な維持管理を行っている。					
指標	活動指標	指標名	単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込
		年間利用者数	人	330000	330000	270000	270000
			人	318626	282892	271000	-
		目標達成度	%	96.6	85.7	100.4	-
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算
	トータルコスト		63,093	62,402	68,745	51,415	61,808
	事業費		56,535	55,866	54,586	46,335	57,372
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0	0
		受益者負担	6,866	6,149	5,481	483	5,480
		その他	0	0	0	0	2,970
	一般財源		49,669	49,717	49,105	45,852	48,922
	人件費合計		6,558	6,536	14,159	5,080	4,436
正職員		6,558	6,536	14,159	5,080	4,436	
正職員以外		0	0	0	0	0	
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
人員	正職員 (人)	0.89	0.89	1.95	0.71	0.62	
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
周辺環境	開始時の周辺環境						
	市民のレクリエーションやコミュニティ活動の場、ひいては市民の「ふるさと」としての心のシンボルとなるよう、限りない活力の源である水テーマとし、永源山の地形を生かした都市的な開発ゾーンと緑豊かな樹木の残っている保全ゾーンを有した都市公園として整備された。						
	現状の周辺環境						
周辺環境	施設の老朽化が進み、長寿命化の観点に立った計画的な改修が必要である。また、平成20年から指定管理制度を導入している。更に、ネーミングライツを導入し、新たな財源確保を行い、魅力的な公園づくりを行っている。						
	今後の予想される周辺環境						
	施設の老朽化や樹木の太木化による維持管理費の増大など、年々維持管理を取り巻く環境は厳しくなる。公民連携による魅力的な公園づくりや、利用者サービス向上が求められる。						
評価	評価項目		評価	評価の理由			
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	市民のレクリエーションやコミュニティの場、災害時における地域防災拠点、緑地の保全などの役割を確保する。			
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A				
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A				
	有効性	4. 計画の実施状況	B	日常的な管理や公園の美化などを指定管理者と連携しながら取り組み、機能保全や安全性の確保を行った。			
		5. 目標（活動指標等）の達成度	A				
		6. 上位施策への貢献度	B				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	B	指定管理者と連携する等、利用者へのサービス向上に取組む。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討	B				
10. これまでの実施手段		B					
総合評価	B	指定管理者と連携しながら適切な維持管理に努めているが、長期的な社会動向を見極め、より効率的・合理的な維持管理を進める。					
改革案	今後の実施方向性	維持	指定管理者による業務実績を検証し、検証結果を基に予防保全的な維持管理を実施することにより、より効果的な管理運営を進める。				
	成果方向性	成果維持					
	コスト方向性	コスト維持					
	改革効果（どのような効果が期待できるか）						

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		都市緑化推進事業費			担当所属	公園花とみどり課	
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間	～			
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備	会計種別				
	推進施策	3 公園・緑地等の適正な維持管理	実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	市民					
	意図	花とみどりに関する情報の普及を行うとともに、花とみどりにふれあう市民相互の交流の場を提供し、緑化意識の高揚を図る。					
	成果	花とみどりに関する市民活動への支援や、自然環境について学ぶ講座等を実施することで、緑化意識の高揚を図る。					
	手段	公園愛護会講習会等において市の緑化推進支援活動（花苗や育苗資材の提供など）を周知し、公園花壇等の維持管理団体の緑化活動の推進を図る。平成24年度に締結した周南市と京都大学フィールド科学教育研究センターとの連携協定に基づき、各種講座を実施し「森・里・海の連環」という広い視野で自然について考えることのできる人材を育成する。					
指標	活動指標	指標名	単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込
		講座開催回数	回	5	5	5	4
			回	5	5	0	-
		目標達成度	%	100.0	100.0	0.0	-
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算
	トータルコスト		6,612	11,748	8,681	9,102	6,858
	事業費		3,002	2,935	2,800	2,734	2,994
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	650	221
		地方債	0	0	0	0	0
		受益者負担	0	0	0	0	0
		その他	122	575	735	777	573
	一般財源		2,880	2,360	2,065	1,307	2,200
	人件費合計		3,610	8,813	5,881	6,368	3,864
正職員		3,610	8,813	5,881	6,368	3,864	
正職員以外		0	0	0	0	0	
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
人員	正職員 (人)	0.49	1.20	0.81	0.89	0.54	
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
周辺環境	開始時の周辺環境						
	公園愛護会の設立により快適で安全な公園の環境づくりを進めている。また平成24年度に周南市と京都大学フィールド科学教育研究センターとの連携協定により定期的に講座を開催し、広い視野で自然について学ぶ場を提供している。						
	現状の周辺環境						
評価	今後の予想される周辺環境						
	市民の要望に応え、講座の内容や開催回数を考えなければならない。						
	評価項目		評価	評価の理由			
妥当性	1. 市の関与（税金支出）		A	花とみどりに関する情報の普及を行うとともに、花とみどりにふれあう市民相互の交流の場を提供し、緑化意識の高揚を図る。			
	2. 事務事業の目的（対象・意図）		A				
	3. 事務事業の目標（活動指標等）		B				
有効性	4. 計画の実施状況		C	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、京都大学との協定に基づく講座などを中止した。指標以外の事業：種から育てた苗で花壇作り、シンボルロード花壇の維持管理、樹木名板の設置の事業。			
	5. 目標（活動指標等）の達成度		C				
	6. 上位施策への貢献度		B				
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B				
効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	京都大学との協定に基づく事業であり、大学関係者が講師を務めている。花壇づくり講習会では指定管理者と連携し開催するなど、講師の選定、内容等は最適である。			
	9. 類似事業との統合・代替の検討		B				
	10. これまでの実施手段		A				
総合評価	B		令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、京都大学との協定に基づく講座などを中止した。今後も、市民参画による緑化活動の推進・啓発と緑豊かな環境整備のため事業を継続的に実施していく。指標以外の都市緑化推進事業は計画どおり実施した。				
改革案	今後の実施方向性		維持	暮らしやすい都市環境の整備に向けて、市民を対象とした花壇づくり講座及び京都大学フィールド科学教育研究センターとの連携協定に基づく講座を継続的に開催する。			
	成果方向性		成果維持				
	コスト方向性		コスト維持				
	改革効果（どのような効果が期待できるか）						
地域花壇づくり講座を通して市民や公園愛護会の緑化意識の高揚を図れる。京都大学フィールド科学教育研究センターとの連携協定に基づく講座を開催することにより、広い視野で自然について考えることのできる人材の育成ができる。							

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		緑のリサイクル事業費			担当所属	公園花とみどり課		
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間	～				
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備	会計種別					
	推進施策	3 公園・緑地等の適正な維持管理	実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	公園緑地の樹木、街路樹、花壇管理団体、育苗団体						
	意図	公園・街路樹等の維持管理で発生する剪定枝、伐倒木等については、ゴミとしてではなく資源として捉え、地球環境にやさしく、最小の費用で活用を図る。この事業により、公園・緑地・地域花壇の緑化資材として、公園緑地分野の循環型社会の形成を目指す。						
	成果	公園樹木や街路樹から発生する枝木をチップ化し、公園・緑地・地域花壇等の緑化資材として活用することにより、環境に配慮した循環型社会の形成を推進する。						
	手段	公園・街路樹等の維持管理で発生する剪定枝、伐倒木等を指定場所に集積し、木材破砕処理機によりチップ化し堆肥化したものを、公園緑地・地域花壇の緑化資材として活用する。						
指標	活動指標	指標名		単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込
		維持公園箇所数		箇所	163	166	166	166
				箇所	163	166	166	-
		目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-	
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算	
	トータルコスト		7,964	7,145	6,901	6,596	7,966	
	事業費		4,796	4,795	4,795	4,807	4,818	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		4,796	4,795	4,795	4,807	4,818	
	人件費合計		3,168	2,350	2,106	1,789	3,148	
正職員		3,168	2,350	2,106	1,789	3,148		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.43	0.32	0.29	0.25	0.44		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
周辺環境	開始時の周辺環境							
	環境に配慮した循環型社会の形成を推進するため、平成20年度から事業を開始した。							
	現状の周辺環境							
利用可能なチップ材としての品質確保や利用促進が課題となっている。								
今後の予想される周辺環境								
三者による「周南市公共施設発生樹木のバイオマス燃料製造及び自家発電所燃料使用に関する協定」に基づき、公共施設等から排出する剪定枝、伐倒木を用いた木質バイオマス燃料製造及び自家発電所における燃料として使用し、温室効果ガスの排出削減への取組みを進展させて行く。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)		A	公園維持等で発生する剪定枝等を「資源」としてとらえ、公園・緑化・地域花壇等の緑化資材として活用する等、循環型社会の形成を目指す。			
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		B				
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)		B				
	有効性	4. 計画の実施状況		B	公園樹木や街路樹から発生する枝木をチップ化し、環境に配慮した循環型社会の形成に寄与した。			
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		A				
		6. 上位施策への貢献度		B				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	公園樹木や街路樹から発生する樹木をチップ化し、環境に配慮した循環型社会の形成に寄与した。今後はバイオマス燃料化協定に基づき、公共施設等から排出する剪定枝や伐倒木等をバイオマス燃料としても使用して行く。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		B				
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	B		低炭素社会の実現に向けた取組みであり、本事業は重要な役割を担っている。					
改革案	今後の実施方向性	維持	今後はさらなるチップ材の利活用を推進するとともに、バイオマス燃料化協定に基づき、温室効果ガスの排出削減への取組みを進展させて行く。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)							
事業が浸透し、緑化促進資材としての利用が増えることで、緑のリサイクルの巡回型社会の仕組みの構築が可能になる。また、バイオマス燃料化協定に基づき、公共施設等から排出する剪定枝、伐倒木等をバイオマス燃料として使用することで、温室効果ガスの排出削減が期待できる。								

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		緑の基本計画策定事業費			担当所属	公園花とみどり課		
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間	令和2年度 ~ 令和2年度				
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備	会計種別					
	推進施策	3 公園・緑地等の適正な維持管理	実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	周南市全域						
	意図	都市緑地法に基づく、緑の保全及び緑化の推進に関する基本計画であり、将来の緑のあり方や公園緑地に関する施策及び市民活動の推進など緑に関する総合的な指針を策定する。						
	成果	緑の保全及び緑化の推進を総合的かつ計画的に実施することにより、緑が有する環境や健康への効果・効用の増進・増強を図れる。						
	手段	「まちづくり総合計画」や「都市計画マスタープラン」との連携・整合を図り、「周南市緑の基本計画」の改訂を行う。						
指標	活動指標	指標名		単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込
		緑の基本計画の策定状況	目標値	%	0	0	100	0
			実績値	%	0	0	100	-
			目標達成度	%	-	-	100.0	-
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算	
	トータルコスト		0	0	0	7,807	0	
	事業費		0	0	0	4,229	0	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		0	0	0	4,229	0	
	人件費合計		0	0	0	3,578	0	
正職員		0	0	0	3,578	0		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
周辺環境	開始時の周辺環境							
	近年の地球温暖化をはじめとする環境問題への関心の高まりや、自然とのふれあいに対するニーズに応えるため、緑の保全や創出に関する長期的な方針を、平成20年6月に策定した。							
	現状の周辺環境							
周辺環境	人口減少や少子高齢化や集約型都市構造化の推進等、緑を取り巻く社会情勢は大きく変化したことから、緑に関する総合的な取り組みと施策である、緑の基本計画の方針を改訂した。							
	今後の予想される周辺環境							
	今後、人口減少や少子高齢化社会が加速し、緑を取り巻く社会情勢は、に大きく変化することが予想される。							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)	A	社会的背景やまちづくりへの取組を踏まえ、水と緑の美しいまちの実現に向け、緑とオープンスペースの保全、整備、活用について計画的に進めることを目的として妥当である。				
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A					
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	A					
	有効性	4. 計画の実施状況	A	緑の基本計画の改訂について都市計画審議会に諮り、計画どおり実施できた。				
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	A					
		6. 上位施策への貢献度	B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	行政業務の簡素化や効率化、デジタル技術の活用により、成果の向上は考えられる。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	A	緑の基本計画の改訂は、計画どおり実施出来たが、今後は、業務の簡素化や効率化、デジタル技術の活用により、成果の向上に努める。						
改革案	今後の実施方向性	維持	人口減少や少子高齢化社会が加じ、緑を取り巻く社会情勢は大きく変化していく中、緑地の保全や緑化の推進、都市公園の整備などを計画的なまちづくりを推進していく。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)		緑の保全及び緑化の推進を総合的かつ計画的に実施することにより、緑が有する環境や健康への効果・効用の増進・増強を図り、潤いのあるまちづくりが図れる。					